

血糖値が正常範囲でもランダム血糖値が高ければ心臓血管病リスク高い

糖尿病は心臓血管病の危険因子として知られている。本研究では、糖尿病の既往のない中国人におけるランダム血糖値と主要な心臓血管病リスクとの関連について検討した。対象となったのは2004年6月から2008年7月に5つの都市および5つの農村で登録された糖尿病、虚血性心疾患、脳卒中、一過性脳虚血発作の既往のない30~79歳の中国人467,508例（男性41.0%、平均年齢51歳）で、2014年まで追跡した。その結果、試験開始時のランダム血糖値と心臓血管病リスクに有意な正の相関がみられた。因果関係希釈バイアス調整後の調整ハザード比をランダム血糖値の通常値で検討したところ、ランダム血糖値の通常値106mg/dLを超えている場合には、18mg/dL上昇すると心臓血管病リスクは11%上昇していた（調整ハザード比1.11）。同様の強い関連が、主要冠動脈イベント（同1.10）、虚血性脳卒中（同1.08）、主要閉塞性血管疾患（同1.08）でも認められた。頭蓋内出血についても弱いながらも有意な関連性が認められた（同1.05）。これらの関連は追跡期間中に糖尿病を発症した症例を除外後も認められた。したがって、糖尿病の既往がない中国人においては、たとえ正常範囲内であってもランダム血糖値が高いと主要な心臓血管リスクが高くなることが示された。

出典：Journal of the American Medical Association. Published online Jul 20, 2016;

doi: 10.1001/jamacardio.2016.1702